

溝のロキリスト教会 ウィンディ・ニュース
第447号 (2023年12月17日発行)

Windy News 年末号

標語：何事も恐れず、神の守りを信じて生きよう。
聖句「恐れるな。…わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」
(イザヤ41章10節)

11月19日(日) クリスマス飾りつけ

教会のイルミネーションが戻ってきました。
コロナで縮小されていましたが、今年は完全復活。みんなで力を合わせて飾った光の彩が、道行く人の目を引きま

クリスマスの光が
私たちの心に希望となって灯りますように。

牧師のコラム

『クリスマススの思い出』

吉原博克 副牧師

二〇二三年もいよいよ十二月、主イエス・キリストの降誕節が間近に迫ってきました。皆様はこれまでの歳月、どのようにクリスマススを過ごしてこられたことでしょうか。

私は仏教・浄土真宗に連なる両親のもとに生まれました。小学四年生の時に祖母が亡くなったのを機会に家に仏壇こそやってきたものの、特に仏教の教えを受けることもなく、両親の郷里の山口県に行く際に墓参りをする程度のご家庭でした。

父は私が四歳の頃、大阪市から同じ大阪府の高槻市に引っ越しをした頃から書家を志し、北摂の新興住宅地の中の商店街で家具店を営みつつ、書道教室を始めました。七〇年代の高度成長期です。小中学生が多く集まりました。両親は忙しく、家でお稽古があった土曜日は私も遊びに行けず、六歳下の弟の面倒を見ながら、教室に来る子どもたちの自転車番番するのが務めでした。土曜日に友だちと

遊べないことでは、親を恨んだものです。

この書道教室、十二月にはクリスマス会を開くのが常でした。子どもたちを楽しませるのが好きだった父は、大阪のおもちや問屋で景品つきのくじ引きセットを大量に仕入れてきて、ふだんから子どもたちの習作を「日本一」だの「世界一」だのと添削しては、それを十枚、二十枚と集めてくる子どもたちにくじを引かせ、景品を与える機会としていました。それを仕切るのは私の仕事です。ぎらぎらした目でくじを引く子どもたちの、雄叫びと阿鼻叫喚の飛び交う中で一連のプロセスを仕切るのは、小学生の私にはなかなかの修羅場だったのを覚えています。

このクリスマス会の大きな目玉が、机の上に山積みされた「お菓子の山」でした。スナックやラムネ、キャラメル、チョコレートをこれまた大量に仕入れてきては、直径一メートル、高さ三〇センチほどの山を作り、やって来る子どもたちは、それを食べ放題で楽しめるのです。部屋の飾りつけを作るのも、お菓子の山を作るのも、そして、残ったお菓子

を大きなゴミ袋に入れて持ち帰り、湿気たお菓子を、紅白歌合戦や芸能人隠し芸大会を観ながら食べ続けるのも、私と母の役目でした。恒例の行事はその後も長く続き、後に、妻として加わる美幸も体験させられるところとなりました。

そんなこんなで、本来の意味も知らぬまま、俗世の修羅場を味わうだけの少年時代のクリスマスでしたが、父が必ず希望のプレゼントを買ってくれて、母が鶏の手羽の照り焼きを食べさせてくれたのだけは良い思い出です。後に教会に通い、クリスマスチャンになるうとは、その頃はよもや思いもしていませんでした。主にある人生は不思議なものです。今年も、祝されたクリスマススの時となりますように。



■敬老食事会

西山宏

久しぶりに開催された食事会。対象の皆さんに限らず、そのご家族、吉原師ご夫妻、奉仕者ほか信徒の皆さんが参加され三十名弱のにぎやかな食事会となりました。

会場は、幾度もお世話になっているピストロ・ポップコーン。40年の歴史を持つフランス料理の名店です。お店を二つに分ける煉瓦の壁をくぐりぬけた奥にテーブルがセットされています。暖炉があり、彫刻の施された木製の壁、見事な調度品に今日が特別な日であることを思わされます。

この日のために心配り準備下さった姉妹の言葉があり、仁井田牧師の御言葉が語られ祈りがささげられました。長きにわたりお互いの距離を保ち感染の危険に配慮する日々でしたが、元気にこの日を迎えられることは誰もが主に心から感謝したと思います。

そして始まりです。お店のスタッフの方が手際よく料理を運んでくださいます。それぞれのテーブルでは笑顔とともに

お話ににぎやかで、おいしい料理がさらにおいしくいただけるようです。スープに始まりメインディッシュからデザートに至るまでとてもおいしくお腹もいっぱいです。

幸いな時間はあつという間に過ぎていきました。恒例のかわいらしい花束が先生からお一人ずつに声掛けとともに手渡されて閉会となりました。

この日は天候にも恵まれて暖かく快晴となりました。お店の外で集合写真を撮りましたが、祝福するような輝く陽光に皆さんまぶしそうです。それでもたくさん笑顔が勝るとも素敵写真になりました。

数年ぶりの食事会でしたが全てを守り豊かに祝福下さった主に感謝いたします。

そして教会に連なる諸先輩方がこれからも健やかに歩まれますようお祈りいたします。

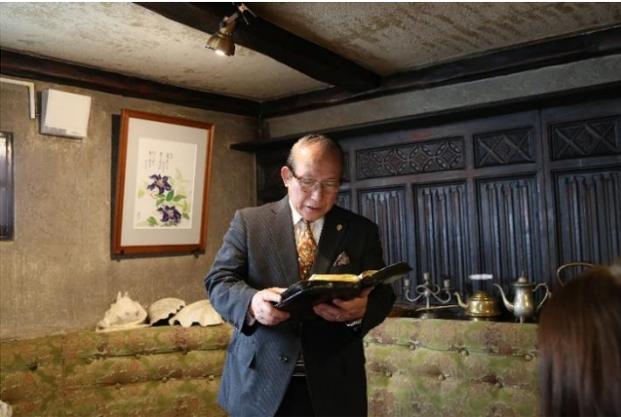
食事会のためご奉仕くださった皆さんありがとうございました。

美味しく、お腹いっぱいになりました。



食事会のメニュー







今回の食事会に出られなかった兄姉には、プレゼントをお送りしました。
来年も多くの兄姉が出られますよう、主にある幸いと健康をお祈りします。

■ マルティン・ルターとボウリング

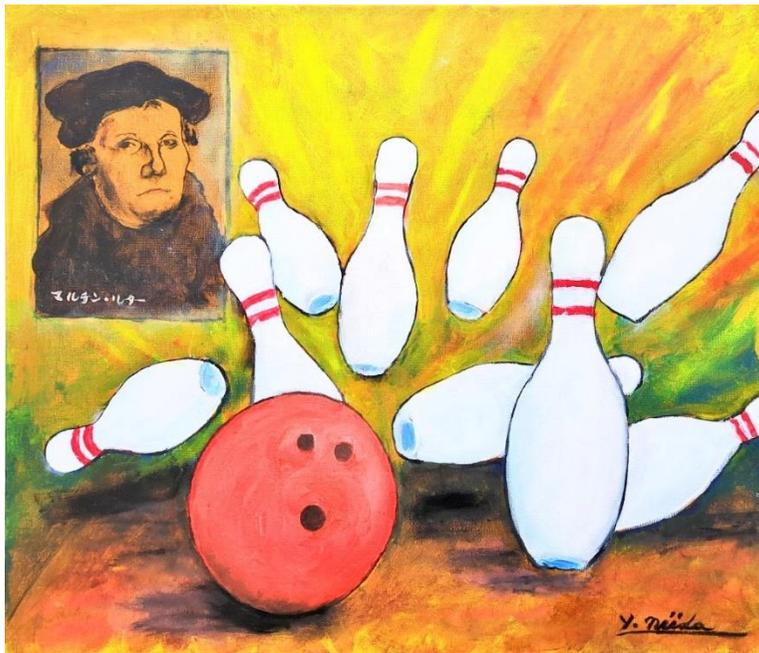
「聖書に触れた人々」など、歴史的なエピソードに詳しい仁井田牧師から教えていただいた、衝撃の事実！

「現在のボウリングの原型

は、ルターが作った！」



↓は仁井田牧師が故あって教会の姉妹の息子さんに贈った絵画。不思議な取り合わせですが、



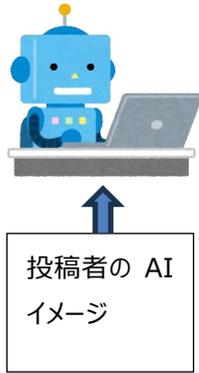
仁井田先生 Facebook より引用転載

仁井田先生が左のような不思議な絵を描かれた際に聞いたエピソードです。え？、「人の話の受け売り」？ はい、今回は思いつき**他力本願**の記事です。
いきなり結論を述べてしまったので話が終わってしまいました。とはいえ、事の真偽を確かめないとはいけません。

疑り深い投稿者は、やはり人の話を鵜呑みにしてはいけないと考えました。たとえ仁井田先生でも、勘違いなきっ
ているかもしれません。過多に情報が
氾濫するこの社会では、どんなことでも
確かな裏取りが必要です。

「わきまえのない者は何でも言われたこと
を信じ、利口な者は自分の歩みをわきまえ
る。」(箴言十四章十五節)

それでは早速、**ChatGPT** 君に聞いて
みましょう！(ダメなパターン)



「現在のボウリングの原型を作ったのは、マルティン・ルターと言われています。ルターは、中世ドイツの宗教改革家で、倒すピンを9本にし、ひし形に並べるといふルールを定めました。このルールは、ナインピン・ボウリン

グとしてヨーロッパで人気になりました。
た。

しかし、アメリカでは、ナインピン・ボウリングが賭け事に使われて禁止されたため、もう一本ピンを追加してテンピン・ボウリングが始まりました。これが、現在のボウリングのルールに近いものです。」(ChatGPT)

仁井田先生の説明は正しかったようです。

ありがとう、**ChatGPT** 君。さすがだね！(明らかにダメなパターン)

マルティン・ルター
1517年、ドイツで宗教改革を開始した人物。ローマ教皇から破門されながら、批判を貫き、聖書中心主義、信仰義認説を掲げてキリスト教の新教(プロテスタント)を成立させた。

■ 久しぶりの教会バーベキュー

「こどもの国」(横浜市青葉区)において教会デイキャンプが行われました。長いコロナの自粛期間で教会キャンプが実施できず、子どもたちにとっても野外でのびのびと遊べる機会が奪われた期間だったかもしれません。仁井田先生の SNS の記事を見るととても充実した様子が伝わってきます。企画準備の兄姉はじめ参加同行のお父さんお母さん、お疲れさまでした。

「十一月四日の土曜日は、4年ぶりの、日曜学校主催のデイキャンプがありました。場所は子供の国で、自然豊かなところですよ。総勢三十七人くらいの参加でした。各班に分かれて行動し、動物のふれあいに行ったり、ボートに乗ったり、「ドラム缶いかだ」で遊んだりしました。最後はバーベキューで楽しい時を持ちました。天候も良く最高でした。緻密に計画を立てて下さった大橋兄に感謝します。」

(仁井田先生 Facebook より)



CAMP



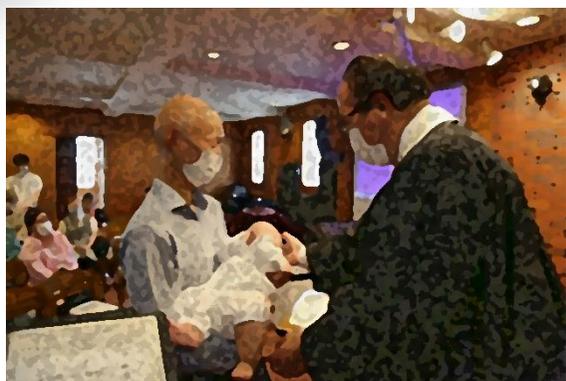
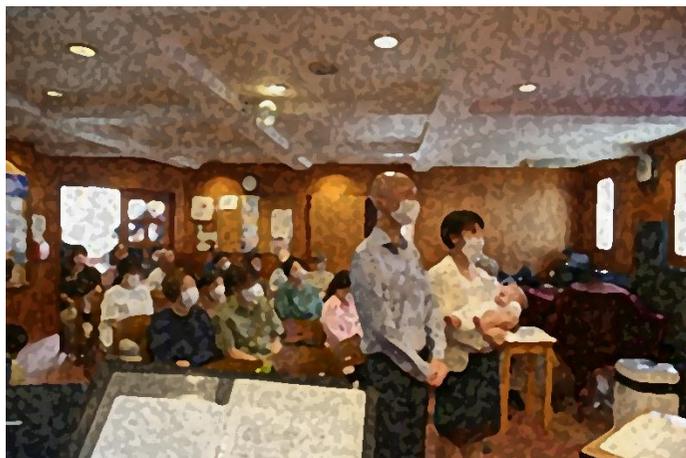
全員で記念撮影



※ 漂流じゃないよ。缶の筏(いかだ)

■ Rちゃん献児式 九月二十四日

第二礼拝の中で、Rちゃんの献児式が行われました。Rちゃんは、ずっとニコニコとして落ち着いていました。(そういえば、教会ではみんなの注目を浴びても泣いたりしないのでは？「将来は大物」の片鱗か!!)
綾姉のご実家からはご両親も駆けつけられたとのことです。神様に祝福された式となりました。



祝福を受けてお父さんの元に戻りました！

■ 聖霊待望会 九月二十四日

コロナで中断していた聖霊待望会も、今年は2回目を迎えました。前回(5月)に続いて、今回も皆で聖霊を求めて祈りを捧げました。

聖霊様に満たされて異言で祈り、「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちはどう祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようも無い深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます」(ローマ8:26)とあるように、一人一人が取り扱われ、感謝でした。

そして今回はM姉が受霊しました。ハルヤ、感謝します。



■ 入会式 九月三日

前回のT姉に続いて、入会式が持たれました。H姉です。教会でも共に神様と歩む姉として、これからもよい交わりが持たれますことに感謝しつつ、姉を歓迎いたします。



■ 婦人部特別講演会 十月十七日(火)



「女性の皆さんが喜びに満ちて集ってくださいました。講演が終わってからも1時間ほど互いに交流して、なごりおしく解散して行きました。感謝!」

へ仁井田牧師 Facebook より。く

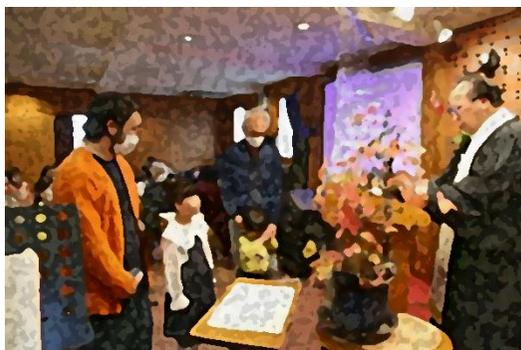


「心の棘を取り除きましょう」
「心の痛み」を主題にした秋の特別講演
会が行なわれました。

この日は28名の出席。賛美やアンケート用紙・軽食等を二十名分用意されていましたが、それを超える参加者により、途中で追加されたとのこと。久しぶりの方も導かれ、感謝でした。

■ Sayukiちゃん幼児祝福式(十一月十二日)

第二礼拝において、Sayukiちゃんの幼児祝福式が持たれました。神様に愛されて、すくすくと成長されますよう、またご家族も祝福されますようお祈りください。



■編集後記

クリスマスの時期に定番の「ポインセチア」や「シクラメン」。町のお花屋さんでも華やかな彩が目を楽しませてくれます。シクラメンは、もともと地中海地方原産で、イスラエルの国花(オリーブが国樹)でもあるそうですが、あのソロモン王と関係する伝説があります。

草花好きだったソロモン王が、王冠に何か花のデザインを取り入れようと考えて、いろいろな花と交渉しますが断られてしまいます。唯一最後に願いを聞き入れてくれたのがシクラメン。王が感謝すると、シクラメンはそれまで上を向いていたのに、恥ずかしさと嬉しさのあまりうつむいてしまい、今のような下向きの花となったと言われています。(※ユダヤの伝承です。)

このシクラメンの花言葉は「遠慮」「気後れ」「内気」「はにかみ」だそうです。が、「…栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。」(マタイ6:29)と仰ったイエス様の目に映っていた花はもしや…と、つい想像を膨らませてしまいます。

(桜井)

年末のお知らせ

- 12/10(日) English Service(第三礼拝)年内最終です。
- 12/12(火) 婦人聖書研究会 年内最終です。
- 12/13(水) 祈禱会 年内最終です。
- 12/17(日) 第一礼拝 AM 9:00 ~ 10:15
- 12/17(日) 第二礼拝 AM 11:00 ~ 12:15
※日曜学校(こどもクラス)も同じ時間
- 12/17(日) クリスマスキャロル PM 5:00 ~ 溝の口駅キララデッキにて。
- 12/24(日) クリスマス礼拝 AM 11:00 ~ (合同1回のみ)
- 12/31(日) AM 11:00 ~ 合同礼拝(年内最終、1回のみ)

ウインディチャペル 溝の口キリスト教会
〒213-0033
神奈川県川崎市高津区下作延 7-11-12
TEL・FAX 044-811-3235
E-mail mcc@windychapel.com
ホームページ <http://windychapel.com>

9/10 敬老食事会



食事会のあと、そろって笑顔で記念写真
これからも主に守られて元気に過ごせますように。



More Pictures



全ての世代を通じて、教会に神様の祝福が注がれますように。

